

行為が先か、意図が先か

笠木雅史（京都大学）

周艶（京都産業大学）

小田宗兵衛（京都産業大学）

科研費
KAKENHI

本研究は、日本学術振興会からの科学研究費助成(若手B：課題番号60713576)を受けています

行為が悪い結果を生むと、行為者はそれを意図的にもたらしたと判断するが、行為が良い結果を生むと、行為者はそれを意図的にもたらしたのではないとは判断する傾向を我々は持っている。結果の良し悪しが意図性についての判断に影響することは、発見者の名前をとって「**ノーブ効果**」と呼ばれる。ノーブ効果は欧米では様々な研究されているが、アジア圏ではほとんど研究されていない。本研究は、

- （１）ノーブ効果はアジア圏でも観察されるか、
 - （２）ノーブ効果は、本当に結果の良し悪しだけによって生じるのか、
 - （３）ノーブ効果は、行為の意図性について判断のほかに、他者の意図性についての判断の予測に対しても生じるのか、
- の3点を調査する。調査のために、日本（京都）と中国（沿岸部の蘇州と内陸部の銀川）で実験を行った。

2つのシナリオ

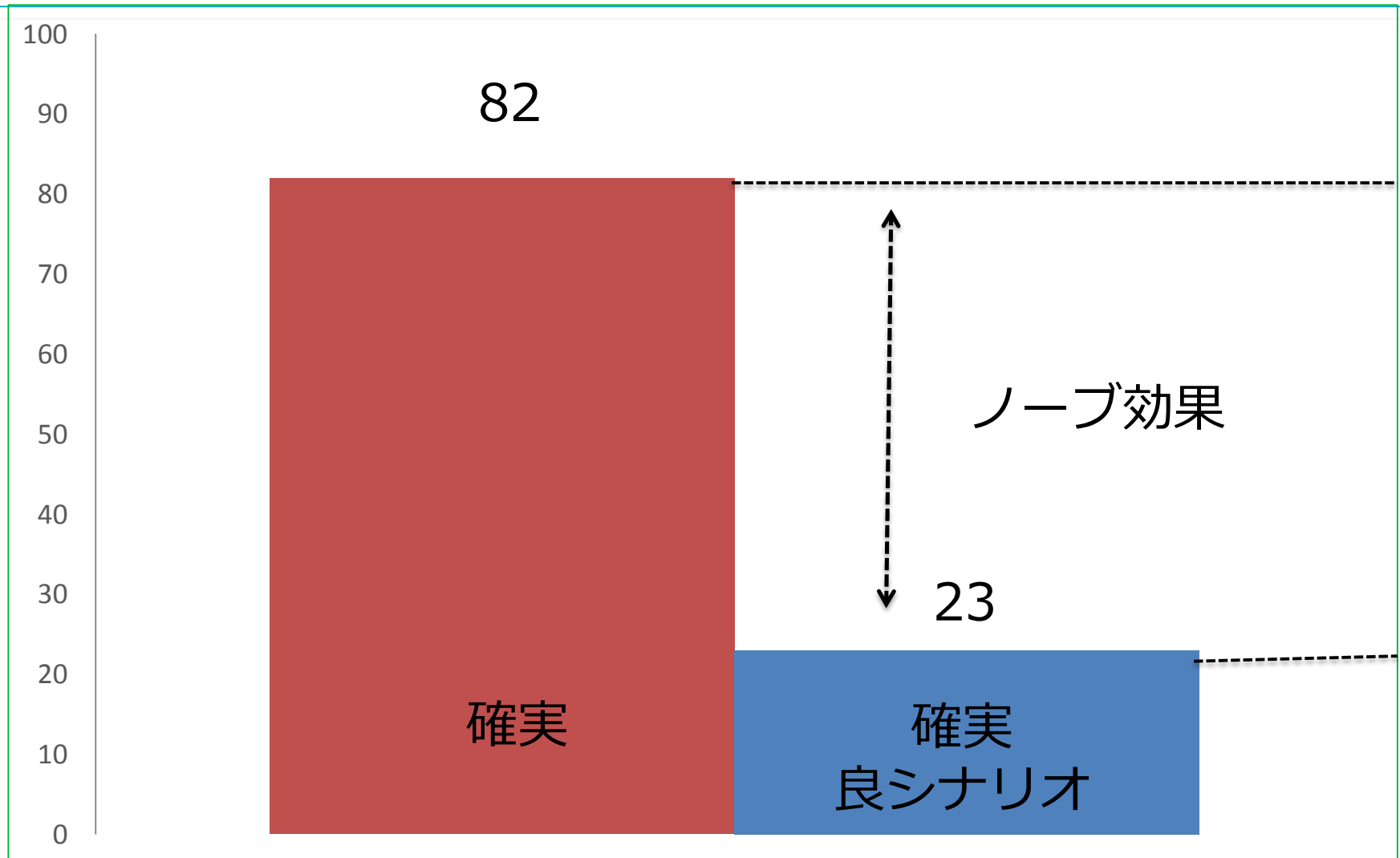
確実悪シナリオ・確実良シナリオ

ある会社の副社長が、「かならず大きな利益を上げるプロジェクトがあります。ただし、このプロジェクトを行えば、環境に**悪い影響/良い影響**を与えます。どうしますか」と会長に尋ねた。「環境への影響など自分にはどうでもよい。私は利益をえたいだけだ。プロジェクトを行おう」と会長は答えた。会社は新プロジェクトを実行して利益をあげ、結果として、環境は**悪くなった/良くなった**。

不確実悪シナリオ・不確実良シナリオ

ある会社の副社長が、「かならず大きな利益を上げるプロジェクトがあります。そして、このプロジェクトは環境に悪い影響を与えるかもしれないし、良い影響を与えるかもしれない。どうしますか」と会長に尋ねた。「環境への影響など自分にはどうでもよい。私は利益をえたいだけだ。プロジェクトを行おう」と会長は答えた。会社は新プロジェクトを実行して利益をあげ、結果として、環境は**悪くなった/良くなった**。

アメリカでの過去の実験



今回の実験

確実シナリオ

	確実悪シナリオ	確実良シナリオ
結果の予想	悪い	良い
実際の結果	悪い	良い
動機	利益	利益

不確実性シナリオ

	不確実悪シナリオ	不確実良シナリオ
結果の予想	悪い/良い	悪い/良い
実際の結果	悪い	良い
動機	利益	利益

意見と予測

意見

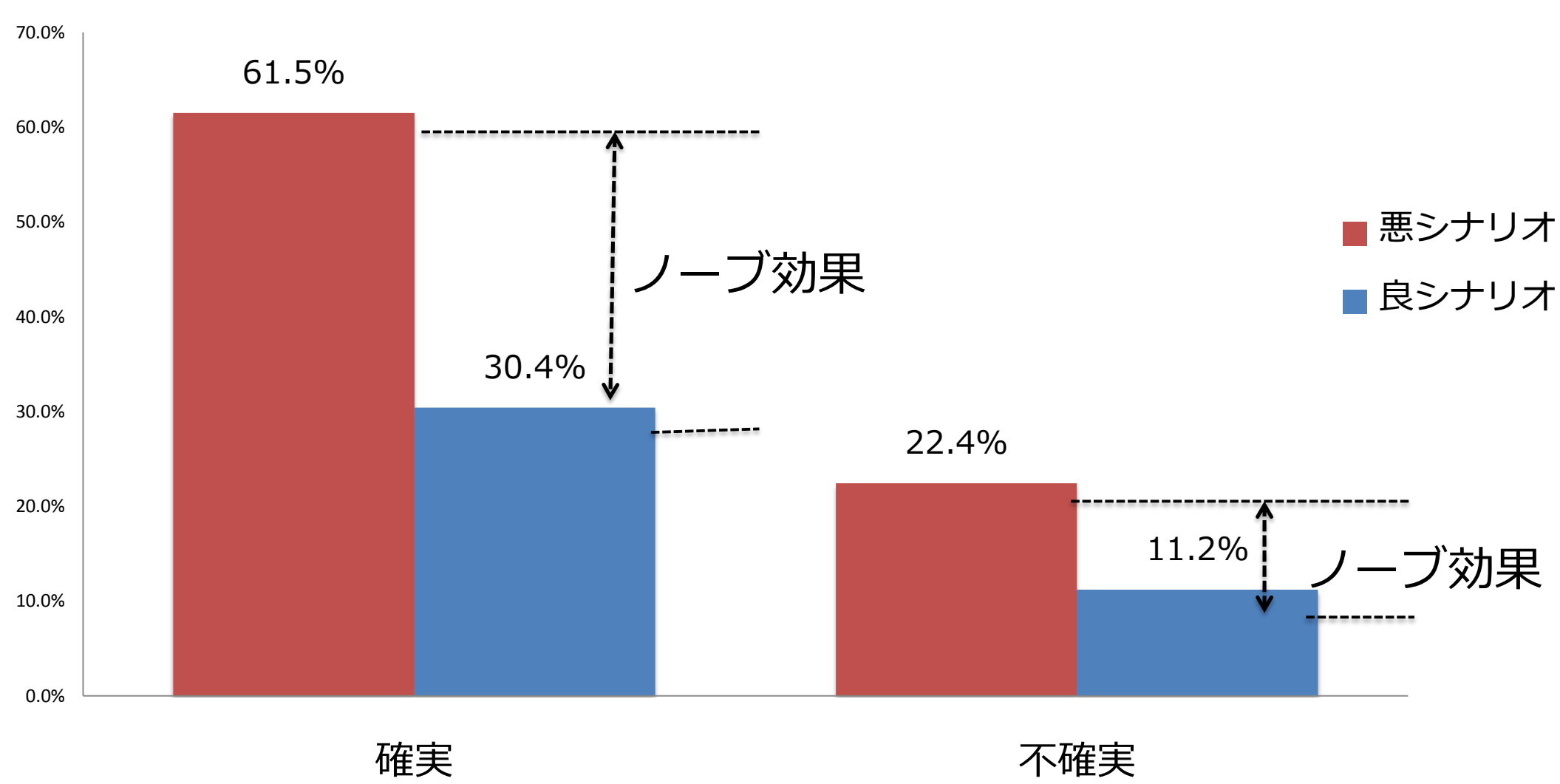
- Yes：会長は意図的にこの結果をもたらした
- No：会長は意図的にこの結果をもたらしたわけではない

予測

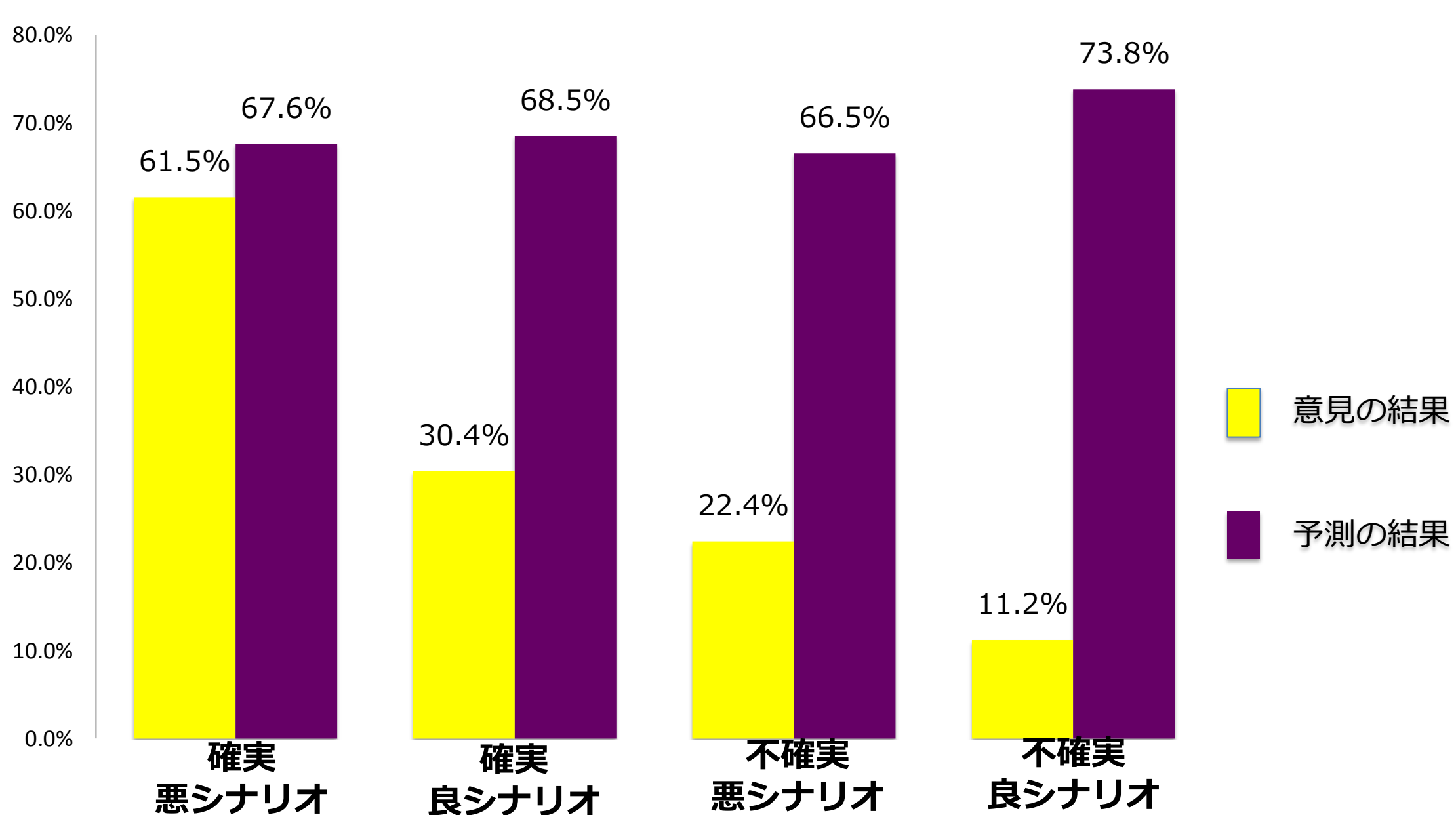
今日の実験の参加者は n 人です。このうち何人が「会長は意図的にこの結果をもたらした」と答えると思いますか。

実験結果

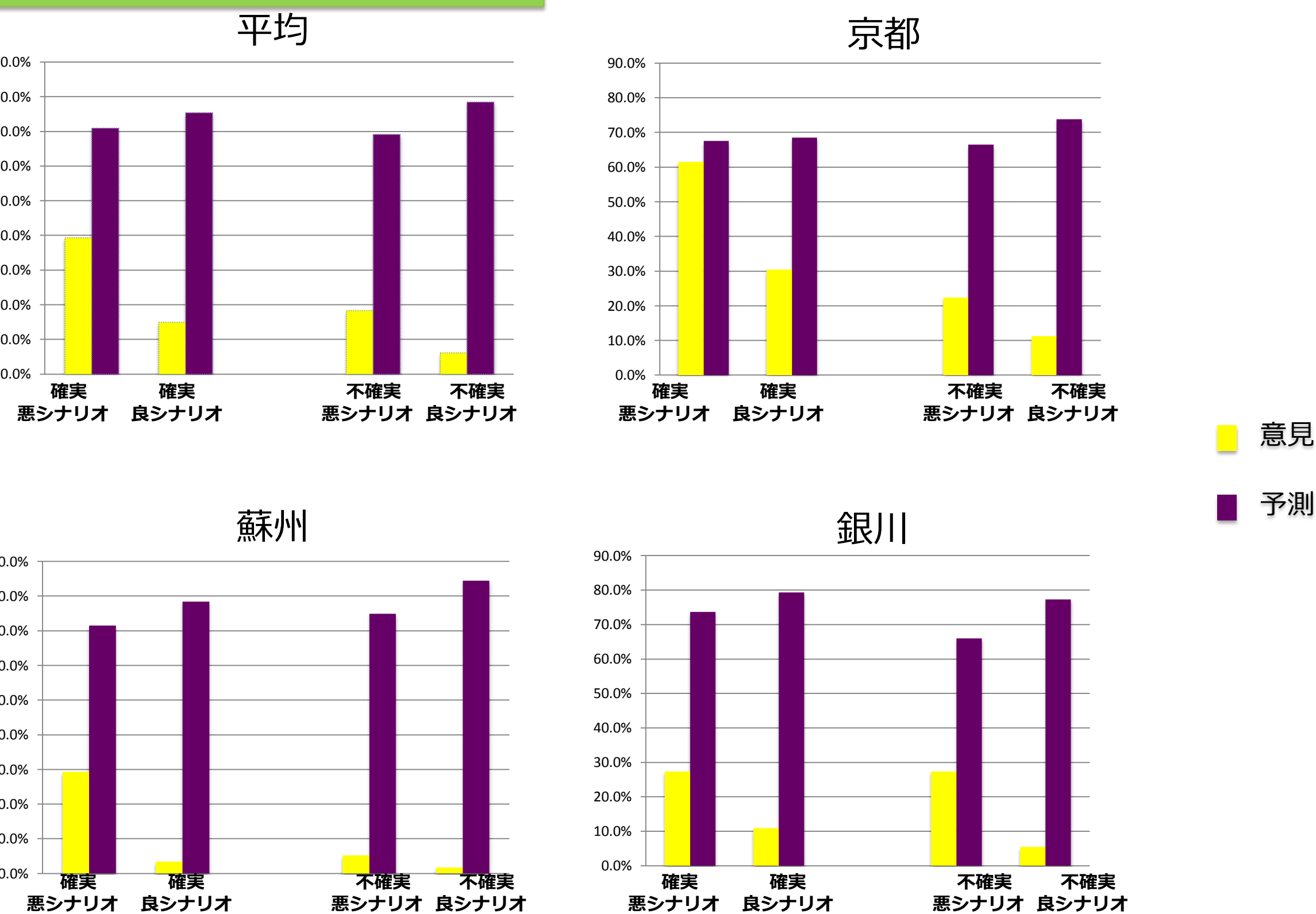
確実シナリオと不確実性シナリオ比較（京都）



意見と予測の結果（京都）



意見と予測の結果：国際比較



調査から分かること・分からないこと

分かること

- （１）ノーブ効果は、欧米同様に日本でも中国でも観察されるが、効果の大きさは、地域ごとにかなり異なる。
- （２）ノーブ効果は、効果の2/3は行為者の結果の予想の差によって生じるが、1/3は結果によって生じる。
- （３）ノーブ効果は意図性判断に対しては生じるが、他者の意図性判断の予測に対しては生じない。

分からないこと

なぜ（３）のような自分の判断と他者の判断の予測が食い違うのか。今後はこの点を調査する。